

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会
第九回（平成 25 年 1 月 22 日） 傍聴者意見

報告書について、文章部分はともかくとして図、写真、地図について詰め込みすぎで字がよく見えない。今後第 3 期への継続、あるいは市民に理解を求めるものであるならば、もう少しみやすい報告書にするべきだと思う。「エコプラザ」について今後のイメージをよりわかりやすくするため、マトリックス方式（各委員の評価）で示す方法もある。

エコプラザの今後の運営については平成 31 年以降といえどもヒントは提起しておくべきではないか。

エコファンド的なものとして、武蔵野市のパートナーシップ補助金（？）が 3 年間継続できたと思われるので、このような制度の活用も検討したらいかがか。

また、廃棄するダンボール、糸、布きれなどは市内の保育園（幼稚園）の教材として欲している施設は結構あると思う。「使ってください」という PR のしくみも大切。

クリーンセンターは長期間の使用に耐える施設が必要になりますので、未来の視点からのアプローチが必要ではないかと思えます。（現状を見ての改正案というような進め方だけでは重要な要素が抜けてしまうと思えます。）

この場合の経営資源視点は、人・物・装置・財政・期間・空間・技術・情報・風土・システムなどの各々から検討いただきたい。

本日の議論で、テニスコートの休憩施設はあまり利用されていないというのは違うと思えます。（あれをなくすと使用機能を極端に減少させます。）

「創造的再利用」は基本的要素です。もっと積極的な活用を。

エコプラザの機能は、もっと積極的な活用・運用をする必要があると思えます。（「環境教育促進法」や「生物多様性促進法」など新しい法律も考慮して）

クリーンセンターの「中間処理的業務」も考慮する必要あり。（全体経費として）

地域通貨の活用も考慮したエコプラザ（リサイクル工房）を。